

平成23年度

機械工業振興事業

補助事業実施に関する事務手続要領
別冊 「補助事業評価事務手続要領」
.....

(研究補助)

財団法人 **J K A**

目 次

はじめに.....	1
I 補助事業評価の流れ	2
II 補助事業の評価について	3
III 事前計画の作成にあたって	10
事前計画の作成の注意事項(1)	10
事前計画 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	11～12
事前計画の作成の注意事項(2)	13
IV 自己評価書の作成にあたって.....	14
自己評価書の作成の注意事項(1)	14
自己評価書 記入例 記入のガイドライン(1)(2)	15～16
自己評価書の作成の注意事項(2)	17

— はじめに —

本要領は、平成23年度機械工業振興事業補助事業実施に関する事務手続要領（以下「補助要領」といいます。）の別冊として、平成23年度機械工業振興事業補助事業の評価に係る諸手続きに関して必要な事項を定めたものです。

補助事業の評価にあたっては、「自転車等機械工業振興事業に関する補助事業の選定の基準及び補助の方法に関する規程」及び「小型自動車等機械工業振興事業に関する補助事業の選定の基準及び補助の方法に関する規程」（両規程を総称して以下「機振規程」といいます。）並びに「自転車等機械工業振興事業に関する補助細則」及び「小型自動車等機械工業振興事業に関する補助細則」の他、補助要領及び本要領に定めた事項に従って事務処理を進めてください。

★ 事前計画／自己評価書の作成にあたって★

- 事前計画／自己評価書の様式は、本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。
- 事前計画は、本財団が補助事業の審査をするにあたって、また補助事業者様自らが事業を管理するにあたって、非常に重要なアイテムです。
- 事前計画作成の際は、自己評価書作成時に使用する、「記入のガイドライン」、「自己評価のスコアリングガイド」等もご確認ください。
- 事前計画は、事業終了後に行う自己評価とともに、公表の対象となりますので、作成にあたっては、次の各点にご留意ください。
 - ・内容を簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するようにしてください。
 - ・専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用し、初めて読む方にも理解し易い説明、文章を心がけてください。

問 合 せ 先 財団法人 JKA 補助事業評価室 評価担当
〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6

電 話 直 通 03-3512-1279

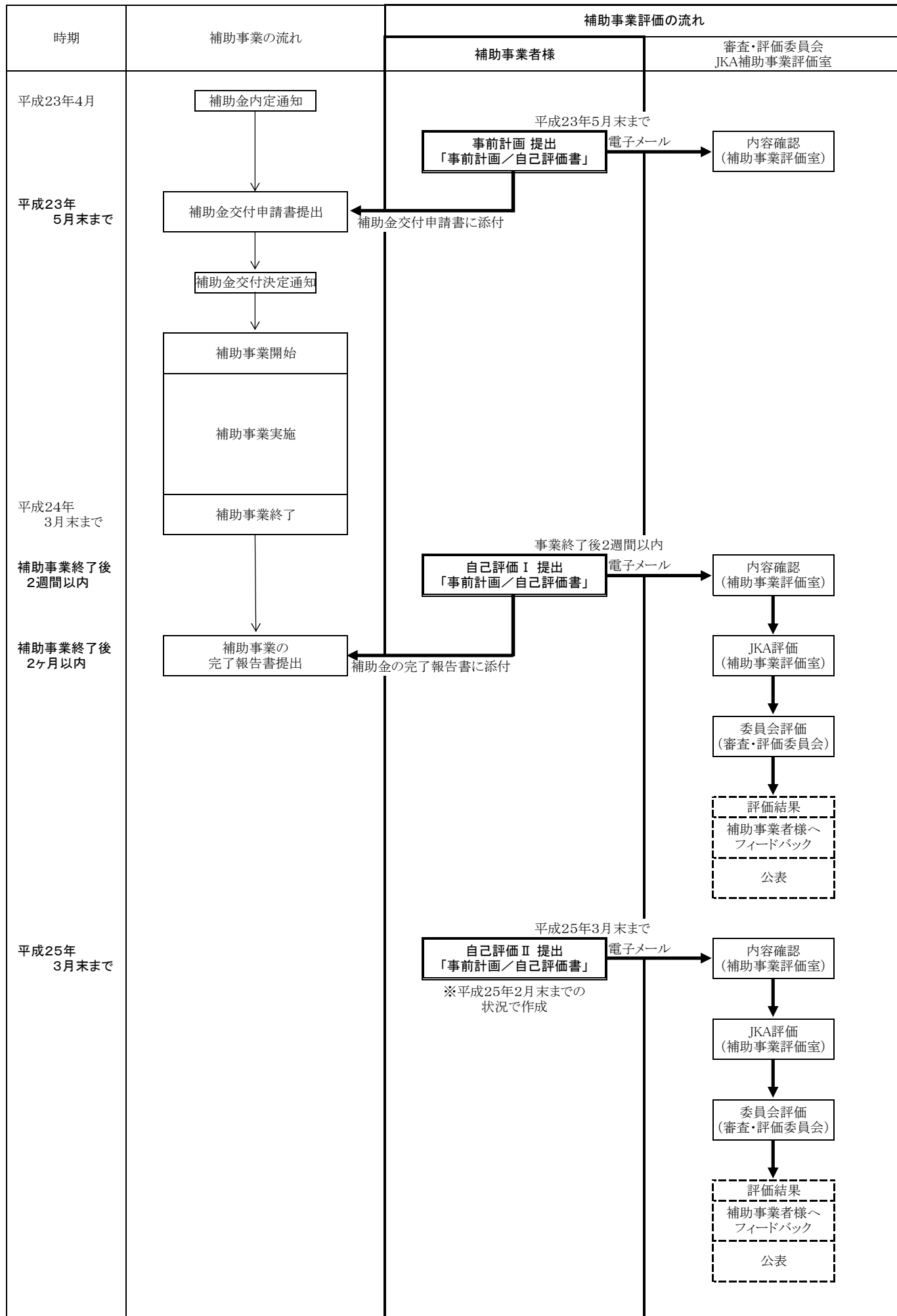
FAX 03-3512-1274

問い合わせ時間 平日の午前9時30分から午前12時まで
午後1時から午後5時30分まで

URL <http://ringring-keirin.jp>

Email m23 hyoka@keirin-autorace.or.jp

I 補助事業評価の流れ



II 補助事業の評価について

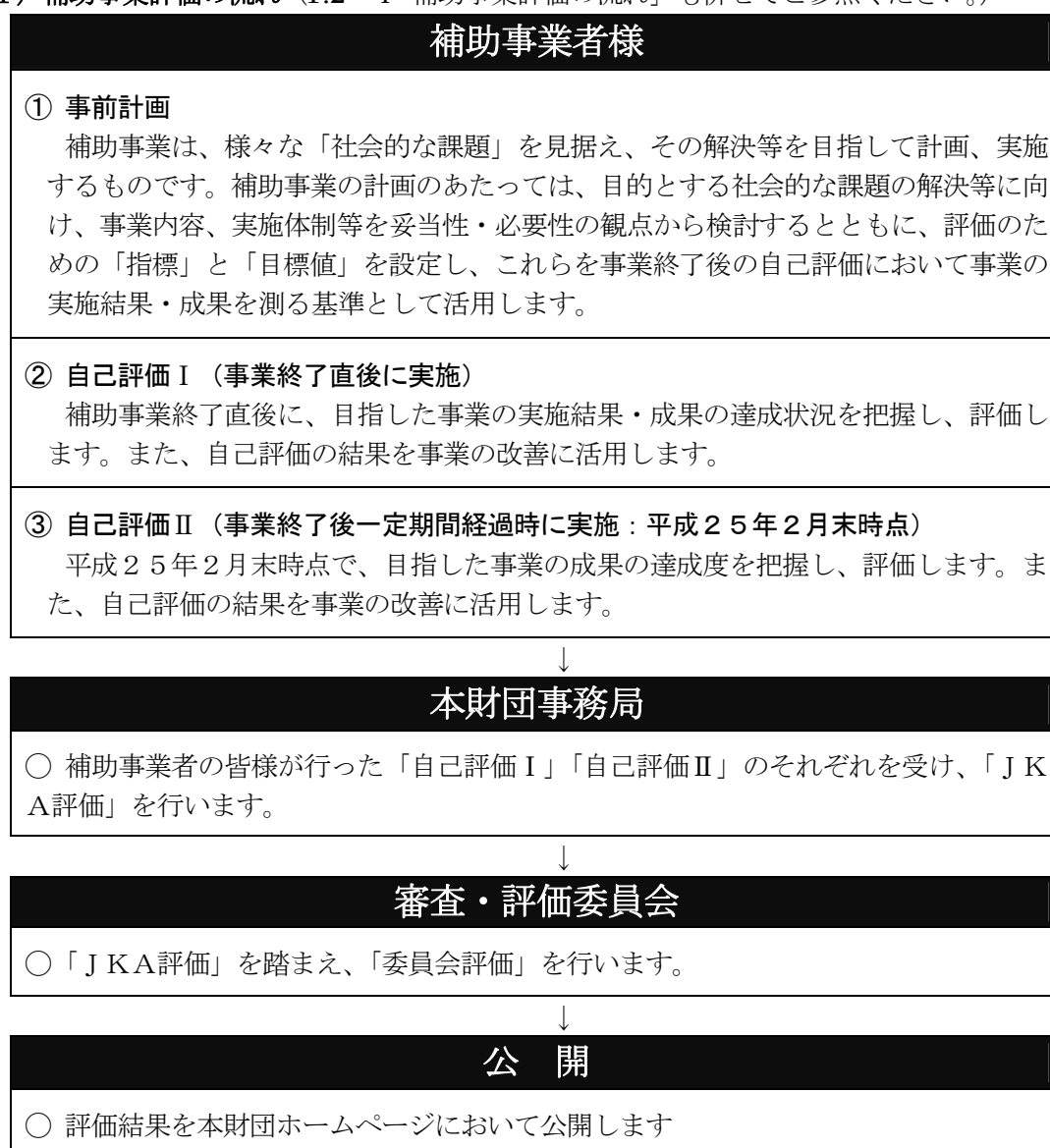
本財団は、補助事業の透明性、効率性を確保するとともに、補助事業の更なる向上を図るため、外部の有識者による機械振興補助事業審査・評価委員会（以下「委員会」といいます。）を設置して補助事業の評価を行い、その結果を公表することとしています。

補助事業者の皆様には、補助事業評価の一環として、下記に掲げる「事前計画」から始まる、一連の「自己評価」を行っていただきます。

「自己評価」は、事業の実施結果の確認、成果の測定にとどまらず、評価の視点で事業全体を振り返ることで、課題等が明確になり、補助事業者様自らの今後の事業の改善等に役立てることができます。

1. 補助事業評価の枠組み

(1) 補助事業評価の流れ（P.2「I 補助事業評価の流れ」も併せてご参照ください。）



(2) 補助事業者様に、委員会で補助事業の成果を発表していただく場合がございます。

(3) 委員会委員が、実際に補助事業の現場を見せていただく場合がございます。

※上記（2）（3）ともに、候補を選定のうえ、対象となる補助事業者様にご連絡します。

2. 事前計画について

(1) 補助事業の事前計画の企画・立案・実施

補助事業者の皆様の実施する補助事業は、補助事業者様自らが、ある特定の「社会的課題」を見据え、その改善、解消、解決を最終目的として、企画・立案し、実施するものです。

ア 補助事業の企画・立案

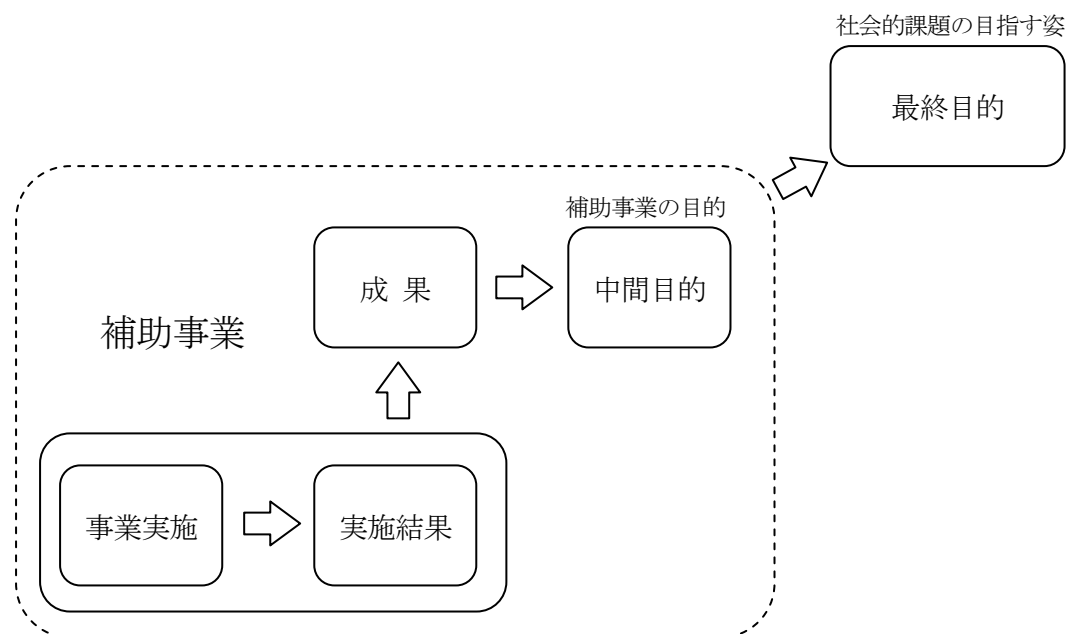
- ① 「社会的課題」の把握
- ② 達成すべき「社会的課題が解決・改善された目指す姿（最終目的）」を設定
- ③ 最終目的に至るまでの手法を検討・決定

【「補助事業」を企画・立案】

- 1) 最終目的を実現するための、「補助事業の目的（中間目的）」を設定
 - 2) 中間目的を実現するための、補助事業の実施内容、目指す実施結果・成果を設定
- ※ 「社会的課題」の把握 ⇒ 最終目的を設定 ⇒ 「補助事業」を企画・立案（中間目的の設定 → 実施内容・実施結果・成果を設定）

イ 補助事業の実施

- ① 「補助事業」を実施
 - ② 予定した「補助事業」の「実施結果」を達成
 - ③ 予定した「補助事業」の「成果（社会に及ぼす改善効果）」を達成
 - ④ 中間目的を達成
 - ⑤ 最終目的を達成（「社会的課題」の改善・解決等）
- ※ 「補助事業」を実施 ⇒ 実施結果 ⇒ 成果を達成 ⇒ 補助事業の目的（中間目的）を達成 ⇒ 社会的課題が解決・改善された目指す姿（最終目的）を達成



ウ 「事前計画／自己評価書」への記入

上記を踏まえ、補助事業の事前計画を、(P.6「3. 事前計画の作成・提出」)に従い、次の順でご記入ください。

- ① 補助事業で改善・解決等を目指す、「社会的課題（最終目的）」の「現状」と「目指す

姿」を明確に記入する。

② 「社会的課題（最終目的）」の改善・解決等のために、補助事業（成果・波及効果）で達成を目指す「補助事業の目的（中間目的）」の達成後の姿を明確に記入する。

③ 「補助事業の目的（中間目的）」を達成するための、補助事業の内容と、目標とする「事業の実施結果」、「事業の成果・波及」等を明確に記入する。

（２）事業の「実施結果」と事業の「成果」

補助事業による効果が、目的とする社会的な課題の解決に寄与していることを明確にするため、下記のとおり、補助事業の「実施結果」と「成果」を明確に区分し、把握することが重要です。（それぞれに後述の指標及び目標値を設定します。）

ア 事業の「実施結果」

事業実施の直接的な産出物、提供されたサービス

（例）研究・調査の実施実績【結果報告書（印刷数・配布先等）】、発表（発表先、回数等）

※P6「評価指標の設定例」（枠内）では、「夜回りの回数」「夜回りの参加人数」

イ 事業の「成果」

事業の実施結果をもとに受益者、対象に起こる改善効果（変化）

（例）地元産業の基盤拡大、研究者の意識改革、当該分野の裾野拡大・新境地開拓、新知見の普及・拡大

※P6「評価指標の設定例」（枠内）では、「（月平均の）落書き件数」

① 事業終了直後に把握できる「成果」

「実施結果」の直接的影響で、事業実施中・直後に生じる受益者・対象への効果等

（例）セミナー参加者の意識の変化・改革、満足度等（アンケートで把握）

② 事業終了後一定期間が経過して把握できる「成果」

「実施結果」、「成果（終了直後）」を通じて生じる、受益者・対象への効果等

（例）セミナー参加者のその後の行動等の変化、さらには地域社会への影響、新分野の産業の萌芽、地元産業の基盤拡大等

（３）評価のための「指標」と「目標値」を設定する

「実施結果」・「成果」を把握し評価するため、事前計画で評価のための「指標」と「目標値」を設定します。

ア 評価のための「指標」の設定

① 評価のための指標とは、事業の結果・成果を評価する物差しとなるもので、基本的には、測定できる数字で表したものです。

② どの指標及び測定方法を選択することが成果を測ることに適しているのか、事前計画段階において関係者間で十分に検討することが重要です。

③ 指標及びその測定方法を設定するポイントを以下に掲げました。

- ・ 測定すべきものを測定していること（どこの段階の何を測定するのか）
- ・ 具体的で測定が容易であること
- ・ 数値等、具体的な値を設定することができ、計測が容易（コストや手間から見

て現実的である)で、結果が比較的短期間(1年程度)で得られること

- ・ 信頼できる結果であること
- ・ 何回測っても、誰が行っても同じ結果が得られること

【評価指標の設定例】

例として「商店のシャッターや外壁に落書きが多発し、商店街の景観が損なわれている」(課題)を解決し、「きれいな商店街を取り戻す」(目指す姿)ことを目的とした事業を行うことを考えます。

落書きを抑止には、様々な事業(例えば、定期的に夜回りを行う、啓発チラシを作成・配布する、街灯の増設・光量を増やす、防犯カメラを要所に設置・増設する、落書きを発生直後に消去して落書きをしにくい環境をつくる 等々)が考えられますが、ここでは、「警察と連携した、商店会有志による夜回り実施」事業を採用したとします。

この事業の結果、成果を評価するために、何を測定すれば(何を指標とすれば)良いかが、ポイントとなります。

【指標・目標値の例】

1) 事業の「実施結果」

「実施結果」は、「事業実施の直接的な産出物、提供されたサービス」ですので、

【指標】は、「夜回りの回数」、「夜回りの参加人数」等が、

【目標値】は、「夜回り」月30回、「参加人数」平均5人等が考えられます。

2) 事業の「成果」

「成果」は、「事業の実施結果をもとに受益者、対象に起こる改善効果(変化)」ですので、

【指標】は、「(月平均の)落書き件数」等が、

【目標値】は、「落書き件数」の80%減少等が考えられます。

イ 「目標値」の設定

① 指標設定の次に、どのくらいの達成を目指すのかという目標値を設定します。

② 目標値は、補助事業評価の判断基準となるもので、非常に重要な項目です。

なぜそのような目標値に設定するのか、その根拠を統計や基準などによって説明できる必要があります。また、その目標値が関係者間で合意されていることが大切です。

3. 事前計画の作成・提出

事前計画は、補助金交付要望時に「事前計画/自己評価書」にてご提出いただいておりますが、今般様式を変更し、補助事業で解決を目指す「社会的課題欄」等を追加するとともに、評価項目によっては新たに指標と目標値欄を設けました。(P.10~P.13「Ⅲ 事前計画の作成にあたって」)に従い、改めて作成の上、補助金交付申請時に補助金交付申請書に添付(モノクロプリント)しご提出ください。また、併せて、補助事業評価室へメールにてご送付ください。

(1) 様式

事前計画／自己評価書は、本財団ホームページからダウンロードした様式をご使用ください。

(2) 補助事業評価室への提出

紙面でのご提出と併せて、m23hyoka@keirin-autorace.or.jp (補助事業評価室) へもメールにてご提出をお願いします。

【事前計画のメール提出】 補助金交付申請と同時

メール件名を「事前計画」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 事前 補助事業者名」としてください。

(例) 23-〇〇〇 事前 (社) 〇〇協会

(3) 計画変更について

補助金交付要望時の「事前計画」に変更を加える場合は、今までの「事前計画」を「補助事業交付要望時欄」へ記入し、計画の変更に伴う「事前計画」を「計画変更時（最終計画）欄」へ記入してご提出ください。

4. 自己評価について

(1) 自己評価を行う意義

事前計画時に設定した指標及び目標値、または実施体制等について、事業終了後にその達成状況、実施状況を評価していただきます。自己評価は、事業の実施結果の確認、成果の測定にとどまらず、事業全体を振り返り、評価結果を確認・分析し、なぜそうなったかを考えることで事業の課題等が明確になり、教訓（新たな知識、知見）を得ることで、補助事業者様自らの今後の事業の改善等に役立ててることができます。

(2) 自己評価の実施

自己評価は、「自己評価Ⅰ」と「自己評価Ⅱ」の2回実施していただきます。

ア 1回目（自己評価Ⅰ）⇒ 事業終了日から2週間以内に本財団へ提出

「事業終了後すぐ」に評価を実施していただき、補助事業の実施状況、補助事業の実施結果、実施直後に発生する成果（改善効果）について把握し、事前計画と照らして評価していただきます。

※自己評価Ⅰの実施・自己評価書作成は、（(P.8「5. 自己評価書の作成・提出（1）」）に従ってください。

イ 2回目（自己評価Ⅱ）⇒ 平成25年3月末までに本財団へ提出

「事業終了から一定期間経過後」（平成25年3月）に評価を実施していただき、（平成25年2月末までの）補助事業の成果・波及効果、広報及び成果の利活用の状況について把握・評価いただくとともに、事前計画で掲げた「補助事業の目的（中間目標）」、「社会的課題（最終目標）」への貢献、達成状況を評価していただきます。

※自己評価Ⅱの実施・自己評価書作成は、(P.8「5. 自己評価書の作成・提出(2)」)に従ってください。

(3) 自己評価のポイント

ア 評価結果が活用できること

評価結果がわかりやすく、役に立つものであることが大切です。そのためには、自己評価を実施する前に、何のために自己評価を行うのかを再度確認してください。

イ 信頼できる評価であること

補助事業に係わる一部の特定の担当者や組織だけでなく、なるべく利用者や参加者などの幅広い関係者、外部の第三者なども加わって、評価を行うことが望めます。

なお、特定の関係者のみで自己評価を実施しなければならない場合には、それ以外の関係者などの意見をヒアリングするなど、信頼できる自己評価に努めてください。

※評価にあたっては、参加者、評価過程を記録してください。

5. 自己評価書の作成・提出 (2回)

(1) 1回目 【自己評価Ⅰの提出(事業終了後2週間以内)】

ア 自己評価の実施

事業終了後、すぐに事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」をもとに、補助事業の評価を行ってください。

※その際は、参加者、評価過程等を必ず記録してください。

イ 自己評価Ⅰの作成・提出

(P.14～P.17「IV 自己評価書の作成にあたって」)に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記するかたちで、自己評価Ⅰを作成し、**事業終了後2週間以内に**、m23hyoka@keirin-autorace.or.jp(補助事業評価室)へメールにて、**ご提出をお願いします。**

② 作成した自己評価は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面(モノクロプリント)でもご提出ください。

【自己評価Ⅰのメール提出】 事業終了後2週間以内

メール件名を「自己評価Ⅰ」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 評価Ⅰ 補助事業者名」としてください。

(例) 23-〇〇〇 評価Ⅰ (社) 〇〇協会

(2) 2回目 【自己評価Ⅱの提出(平成25年3月)】

ア 自己評価の実施

平成25年3月を迎えたら、すぐに事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」をもとに、平成25年2月末までの補助事業の成果とその波及状況等について、評価を行ってください。

※その際は、参加者、評価過程等を必ず記録してください。

イ 自己評価Ⅱの作成・提出

(P.14～P.17「Ⅳ 自己評価書の作成にあたって」)に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記するかたちで、自己評価Ⅱを作成し、平成25年3月末までに、m23hyoka@keirin-autorace.or.jp (補助事業評価室)へメールにてご提出をお願いします。

【自己評価Ⅱのメール提出】 平成25年3月末まで

メール件名を「自己評価Ⅱ」とし、添付ファイル名を、「補助事業番号 評価Ⅱ 補助事業者名」としてください。

(例) 23-〇〇〇 評価Ⅱ (社) 〇〇協会

6. 評価結果の公開

評価結果については、補助方針にも示したとおり「Ring! Ring! プロジェクト」のホームページで公開いたします。

7. 委員会における成果の発表

補助事業者様に、委員会で補助事業の成果を発表していただく場合がございます。

8. 現場視察

委員会委員が、実際に補助事業の現場を見せていただく場合がございます。

9. お問い合わせ

「事前計画／自己評価書」の作成についてご不明な点がございましたら、補助事業評価室までお問い合わせください。(補助事業評価室 担当 木村・石川)

連絡先 電 話 03-3512-1279

※電話受付時間 午前9時30分～午前12時・午後1時～午後5時30分

Eメール m23hyoka@keirin-autorace.or.jp

Ⅲ 事前計画の作成にあたって

事前計画の作成の注意事項（１）

補助事業の事前計画を、右ページの様式の記入ガイドライン(噴出し部分)、記入例等を参考に作成してください。（P.4「2. 事前計画について」も併せてご参照ください。）

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A 3 横版の 2 枚構成になっています。

(1) 様式は、必ず本財団ホームページからダウンロードしたものをご使用ください。

ア 事前計画で記入する箇所は、白抜きの太枠で囲まれた欄のみです。

イ 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

ウ 要望時から計画に変更のない事業は「補助金交付要望時」の列に記入してください。査定結果で事業内容に変更が生じた事業は、要望時の計画を「補助金交付要望時」の列に記入し、さらに、変更箇所のみを隣の「計画変更時」の列に記入してください。

エ 「指標」と「目標値」は、必ずご記入ください。（P.5・P.6もご参照ください。）

① 指標、目標値欄が設定された評価項目

「自己評価」で達成率（達成状況）を計算していただきますので、数値で表現した指標と目標値を必ず1セット以上設定してください。

② 指標、目標値欄の設定がない評価項目

できるだけ数値で表現できる指標と目標を設定し、ご記入ください。

（数値表現が難しい場合は、数値以外の指標と目標を設定するよう努めてください。）

③ 指標、目標値の設定にあたっては、必ずその設定根拠を具体的な内容欄に記入してください。

【右ページの丸付き数字の欄は以下のとおり記入してください。】

- ① 内定通知書に記載された補助事業番号。
- ② 内定通知書に記載された補助事業者名。
- ③ 内定通知書に記載された事業名。
- ④ 該当する文字を残す。（該当しない文字は削除する。）
- ⑤ 要望書提出時のそれぞれの金額を記入。

申請者氏名	競輪 太郎			補助金(千円)	交付要望額	2,950	補助対象経費総額(千円)	要望時	2,950
補助事業名	平成23年度(研究補助) ○○○○の研究開発補助事業	事業形態	個別研究	委託の有無	無	交付決定額(a)	交付決定時		
				最終予算額	数字は全て半角で入力してください。①②⑤				
				決算額	(b)	千円未満は切捨ててください。⑤			

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題(補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください)

社会的課題 (最終目的)	現 状	近年、健康、環境、経済性等の様々な観点から、通勤、日常生活等で自転車の利用がとみに高まってきているが、それに比例するように対歩行者、自転車どおし、対自動車の事故が急増し、社会問題化している。
	目指す姿	事故を防止し、全ての人が安全に自転車の利便性を享受できる社会を実現する。

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価(社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください)

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業の目的 (中間目的)	自転車運転者、歩行者、自動車運転者の知覚、心理面から事故の発生を抑制する、道路標識の配置・形状、道路の形状等を研究、検証する。
-------------------	---

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る

※社会的課題と補助事業の関係(なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか?)

- 補助事業は、様々な「社会的課題」を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指し、計画・設計し、実施するものです。
(1) 補助事業の設計
「社会的課題」の把握 ⇒ (改善・解決のための手法決定) ⇒ 達成「目的」の設定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
(2) 補助事業の実施
「補助事業」の実施 ⇒ 「補助事業」の実施結果 ⇒ 「補助事業」の成果(改善効果) ⇒ 「目的」の達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等
- 左記に「社会的課題と補助事業の関係」を示す「流れ図」を掲げましたので、事前計画とともに内容を記入し、流れ図を完成してください。
- 補助事業の設計と実施にあたっては、この「流れ図」と自らの補助事業を対比し、計画は明確な「目的」、「成果」、「結果」、「内容」が設定され、「社会的課題」の改善・解決等に資するものであるか(流れを合理的に説明できるか)を、常に検証してください。
- また、補助事業実施の効果等を客観的に把握し今後の改善につなげるため、各評価項目の達成度を検証する「指標」(達成指標)と「目標値」を計画段階でこの「事前計画／自己評価書」で明示し、事業実施後に各評価項目の「指標」の達成度を検証し、事業を評価することが重要です。

枠内は補助事業終了後に作成してください。

枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

作成者名、作成日(半角)を入力してください。2ページ目には自動的に反映されます。

(3) 補助事業の自己評価(自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

事前計画		自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ	
評価項目	補助金 交付要望時 作成者(○○○○) [平成 0 年 0 月 0 日]	計画変更時(最終計画) 作成者() [平成 年 月 日]	自己評価Ⅰ 作成者() [平成 年 月 日]	自己評価Ⅱ 作成者() [平成 年 月 日]	自己評価Ⅱ 平成25年3月に作成
具体的な内容		具体的な内容	分析・解説・価値判断	分析・解説・価値判断	採点
A 事業内容	研究のニーズ	自転車事故が急増するなか、従来からのアプローチ(安全教育、マナー向上教育)に加え、新たな視点からの効果的な事故抑止策が求められている。	本事業が必要とされている状況を具体的に記入してください。		
	具体的内容	①過去事例の分析・評価:過去5年間の自転車事故事例を、原因、発生場所、時間帯、相手方等の諸要素で解析し、現場の道路標識(路面標識も含む)の配置、形状及び道路形状の影響と、事故当事者(年齢層も分析要素)の知覚(視覚)、心理面からの影響を検証する。 ②検証実験の実施:過去事例を基に、様々な状況を想定して、再現実験を行う。その際は、実験当事者(自転車運転者、歩行者、自動車運転者)にアイカメラを装着し、視点の推移と当事者の状況把握状況、実際の周辺状況との差異等を記録し、事故と標識等の現場状況、当事者の知覚、心理状況との関連性を検証する。 ③事故防止策の提案:上記検証等を基に、標識の改善等の実地的な事故防止策を提案する。	ニーズに応え、補助事業の目的を達成する為に行う事業の内容を具体的に記入してください。		
	研究の新規性・萌芽性・独創性	自転車事故について、全当事者の知覚面と心理面及び、外部要因としての道路標識(形状、配置)、道路形状の相関を検証し、事故防止に新たなアプローチを試みる。	研究の新規性、萌芽性、独創性について具体的に記入してください。		
	研究計画	①過去事例の分析・評価 平成23年9月まで ②検証実験の実施 平成23年10月～12月 ③実験結果とりまとめ、事故防止策の提案 平成24年3月まで	研究の実施計画を具体的に記入してください。 【研究計画】 ○準備から研究のまとめまでのスケジュールを記入してください。		
B 目標	研究体制	本研究は、以下の協力体制のもと、研究代表者である申請者が中心となって実施する。 ①申請者研究室の◇◇ ◇◇准教授(××××分野) ②申請者研究室の院生 2名 (□□ ○○、△△ ××)	研究の実施体制について、以下の項目を記入してください。 【研究の実施体制】 ○研究を実施するメンバー構成、責任者と役割分担を記入してください。		
	研究の実施結果	指標 目標値 具体的な内容 研究報告書 ①平成24年3月 ②150冊 作成時期:5月春の交通安全週間に参考となるように平成24年2月までにまとめ3月に納品する。 作成冊数:150冊(関連官公庁に3月中に配布)	指標 目標値 具体的な内容	達成値 達成状況	分析・解説・価値判断 採点
	事業の成果・波及	自転車事故発生数、発生確率 減少 現時点では、減少の目標値を設定するのは困難だが、平成24年上期までの○○○集計の自転車事故数が前年度事故数を下回することを目標値とした。	補助事業終了後から一定期間経過後(平成25年2月末まで)に達成を目指す成果目標を定めてください。 【指標】波及した成果を測定することができる指標を記入してください。 【目標値】具体的な目標数値を記入してください。 【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。		

記入のガイドライン

枠内は補助事業終了後に作成してください。

枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

(2) 補助事業の事前計画

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

評価項目		事前計画						自己評価				採点		
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)			自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ				
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容	達成値	達成状況	分析・解説・価値判断	達成値		達成状況	分析・解説・価値判断
C 広報	研究成果の広報	①研究室HP掲載(更新):回数 ②研究報告書:冊数	①8回 ②150冊	①研究室HP及び申請者ブログで研究の状況等を情報発信する。 ②研究結果を報告書にとりまとめる。				【上段】事業開始から事業終了後2週間までの広報計画を記入してください。 補助事業であることを研究室内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。 【下段】事業終了後2週間後から25年2月末までの間の広報計画を記入してください。 補助事業であることを研究室内外部へ効果的に伝えることができる広報を考えてください。 【「指標」・目標値(例)】マスメディアの取材回数・2回、業界新聞・雑誌掲載時期・2回 等 【具体的な内容】指標・目標値の設定理由(根拠)を具体的に記入してください。						
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①学会発表:回数 ②学会誌への寄稿:回数 ③大学広報掲載:回数	①3回 ②4回 ③1回	①学会発表 ○○○○学会で発表する。 ②学会誌への寄稿 △△△△△をする。 ③大学広報(Web)に掲載 1年間掲載予定。										
	JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	①研究室HP掲載(更新):回数 ②研究報告書:冊数	①8回 ②150冊	①研究室HP及び申請者ブログで競輪補助金による旨を明示する。 ②研究報告書に競輪補助金による旨を明示する。										
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①学会発表:回数 ②学会誌への寄稿:回数 ③大学広報掲載:回数	①3回 ②4回 ③1回	①学会発表維持に競輪補助金による旨を明示する。 ②学会誌への寄稿の差異に競輪補助金による旨を明示する。 ③大学広報(Web)概略報告時に競輪補助金により実施旨を明示する。										
D 成果の 利活用方法		具体的な内容			具体的な内容			達成値		達成状況		分析・解説・価値判断		採点
		本補助事業の提言に基づく道路標識(路面標識を含む)の形状、配置及び道路形状の見直しを行政に働きかける。			研究で得られる成果の活用方法(25年2月末までに想定される利活用)について具体的に記入してください。									

(4) 補助事業の総括 Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者() [平成 年 月 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

総合評価

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点	【課題】
	【理由】		【改善策】
事業全体の総括的感想		事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)	

(5) 補助事業の総括 Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者() [平成 年 月 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況(必須)	
----------------------------------	--

事前計画の作成・記入の注意事項（２）

(2) 事前計画の提出

事前計画は、本要領に従い、ご記入の上、補助事業交付申請時に紙面（モノクロプリント）で補助金交付申請書に添付しご提出ください。

※紙面でのご提出と併せて、m23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へもメールにてご提出をお願いします。

※メール提出方法は、（P.6「3. 事前計画の作成・提出」）をご参照ください。

補助事業の表示・公表について（重要）

当該事業が補助事業であることの表示と、補助事業の実施内容と成果の公表が行われない場合、あるいは不十分な場合は、機振規程第 30 条の定めにより、補助金の全部又は一部の交付の決定を取り消す場合がありますので、表示・公表を徹底してください。また、十分なPRに務めてください。

（本財団では、証左となる写真、印刷物、映像・音声データ等のご提出を求めます。）

○補助事業を実施する場合には、補助事業である旨の表示

「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることが、補助事業に接する一般の方にご認識いただけることがポイントです。（標識の表示等）

○「JKA の競輪・オートレースの補助金で実施された事業」であることの公表

「JKA の競輪・オートレースの補助金で事業を実施したこと」を、広く社会一般にお知らせすることがポイントです。（市報への掲載等）

※表示等の詳細は、補助要領をご参照ください。

IV 自己評価書の作成にあたって

自己評価書の作成の注意事項（１）

自己評価を、右ページの様式の記入ガイドライン（噴出し部分）と記入例等を参考に、提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記（採点欄のある評価項目は、自己評価のスコアリングガイドを基準に採点・記入）し、提出してください。（P.7「4. 自己評価について」）も併せてご参照ください。

※ 事前計画／自己評価書の様式は、A 3 横版の 2 枚構成になっています。

(1) 自己評価は、採点も含め、自己評価体制の合意のもとで実施してください。

※評価にあたっては、参加者、評価過程を記録してください。

(2) 簡潔、かつ明確に、過不足なく記入するとともに、専門用語、業界用語の使用を避け、わかり易い言葉を使用するようにしてください。

(3) 記入箇所と提出期限

① 1 回目（自己評価Ⅰと補助事業の総括Ⅰ）

右ページ「記入例」では太枠で囲まれた欄（ダウンロード上は青色に彩色された欄）です。

② 2 回目（自己評価Ⅱと補助事業の総括Ⅱ）

右ページでは角丸二重枠で囲まれた欄（ダウンロード上はピンク色に彩色された欄）です。

(4) 非数値の指標と目標値の達成状況

評価項目により、非数値の指標と目標を設定した場合でも、その達成状況を必ずご記入ください。

【自己評価のスコアリングガイド 1/2】

A 研究の ニーズ	5	研究のニーズの想定は適切であり、当該ニーズに沿った適切な事業を実施することができた。また加えて、想定した研究のニーズを超えて、研究の効果が大きな広がりを見せている。
	4	研究のニーズの想定は適切であり、当該ニーズに沿った適切な研究を実施することができた。
	3	研究のニーズの想定は適切であり、一部変更はあるものの当該ニーズにほぼ沿った研究を実施することができた。
	2	研究のニーズの想定の一部に誤りがあり、計画変更が必要であった。 または、研究のニーズの想定は適切であったものの、計画に問題があり当該ニーズに対応するために、大幅な計画変更が必要であった。
	1	研究のニーズの想定に大きな誤りがあった。または、研究のニーズの想定に誤りがなかったものの、本研究の内容との齟齬が大きく、計画変更を行っても研究のニーズに対応することができなかった。
A 研究の 新規性、 萌芽性、 独創性	5	研究の進め方、内容、結果等に、事前計画を超えた新規性、萌芽性、独創性を発揮することができた。
	4	研究の進め方、内容、結果等に、事前計画で示した新規性、萌芽性、独創性を発揮することができた。
	3	研究の進め方、内容、結果等に、部分的ではあるが事前計画で示した新規性、萌芽性、独創性を発揮することができた。
	2	研究の進め方、内容、結果等に、事前計画で示した新規性、萌芽性、独創性はほとんどなかった。
	1	研究の進め方、内容、結果等に、事前計画で示した新規性、萌芽性、独創性は全くなかった。
A 研究計画及び 研究体制	5	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、実施過程における更なる創意工夫により、スケジュール面、コスト面等で事前計画を超える研究を実施することができた。
	4	事前計画は、内容及び結果・成果からみて妥当な計画（実施手法・スケジュール・コスト・体制）であった。また、事前計画通りに円滑、効果的かつ効率的に研究を実施できた。
	3	事前計画の実施手法、実施体制で若干不十分な部分があり、修正が必要であったが、ほぼ支障なく研究を実施できた。
	2	事前計画に不十分な部分（実施手法・スケジュール・コスト・体制）があり、コストの増加、スケジュールの遅延等で計画変更を余儀なくされた。
	1	事前計画またはその実施過程に問題があり、コストの大幅な増加（事前計画の 50%以上の増加）またはスケジュールの大幅な遅延（研究の完了が平成 24 年 3 月 31 日を越える）が生じた。
B 研究の 実施 結果	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。

※ 研究の成果・波及のスコアリングガイドは 17 ページにをご覧ください。

申請者氏名	競輪 太郎					補助対象経費総額 (千円)			
						要望時	2,950		
補助事業名	平成23年度(研究補助) ○○○○の研究開発補助事業	事業形態	個別研究	委託の有無	無	交付決定額(a)	2,950	交付決定時	2,950
						最終予算額	2,800	執行率 (b/a)	94.9%
						決算額 (b)	2,800		

数字は全て半角で入力してください。
千円未満は切捨ててください。

数字は全て半角で入力してください。
小数点第1位まで記入してください。
(小数点第2位を四捨五入)

【社会的課題と補助事業の関係 流れ図】

1.社会的課題 (補助事業で改善・解決等を目指す社会的課題の現状と目指す姿を記入してください)

社会的課題 (最終目的)	現 状	近年、健康、環境、経済性等の様々な観点から、通勤、日常生活等で自転車の利用がとみに高まってきているが、それに比例するように対歩行者、自転車道おし、対自動車の事故が急増し、社会問題化している。
	目指す姿	事故を防止し、全ての人が安全に自転車の利便性を享受できる社会を実現する。

補助事業の目的達成により、社会的課題の適切な対応、改善、解消、解決を図り、「目指す姿」を実現する。

2.補助事業の設計・評価 (社会的課題の改善・解決等に資する補助事業を設計し、事業終了後に自ら事業を評価してください)

(1) 補助事業で達成を目指す、目的の達成後の姿

補助事業の目的 (中間目的)	自転車運転者、歩行者、自動車運転者の知覚、心理面から事故の発生を抑制する、道路標識の配置・形状、道路の形状等を研究、検証する。
-------------------	---

補助事業の成果・波及効果により、目的達成を図る。

※社会的課題と補助事業の関係 (なぜこの補助事業を計画し、実施する必要があるのか)

- 補助事業は、様々な「社会的課題」を見据え、その対応、改善、解消、解決を目指し、計画・設計し、実施するものです。
(1) 補助事業の設計
「社会的課題」の把握 ⇒ (改善・解決のための手法決定) ⇒ 達成「目的」の設定 ⇒ 「目的」達成のため「補助事業」を計画
(2) 補助事業の実施
「補助事業」の実施 ⇒ 「補助事業」の実施結果 ⇒ 「補助事業」の成果(改善効果) ⇒ 「目的」の達成 ⇒ 「社会的課題」の改善・解決等
- 左記に「社会的課題と補助事業の関係」を示す「流れ図」を掲げましたので、事前計画とともに内容を記入し、流れ図を完成してください。
- 補助事業の設計と実施にあたっては、この「流れ図」と自らの補助事業を対比し、計画は明確な「目的」、「成果」、「結果」、「内容」が設定され、「社会的課題」の改善・解決等に資するものであるか(流れを合理的に説明できるか)を、常に検証してください。
- また、補助事業実施の効果等を客観的に把握し今後の改善につなげるため、各評価項目の達成度を検証する「指標」(達成指標)と「目標値」を計画段階でこの「事前計画／自己評価書」で明示し、事業実施後に各評価項目の「指標」の達成度を検証し、事業を評価することが重要です。

枠内は補助事業終了後に作成してください。

枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

作成者名、作成日(半角)を入力してください。
2ページ目には自動的に反映されます。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画				(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)							
		補助金	交付要望時	作成者 (○○○○)	[平成 0 年 0 月 0 日]	計画変更時(最終計画)	作成者 ()	[平成 年 月 日]	自己評価Ⅰ	自己評価Ⅱ			
		具体的な内容				具体的な内容							
A 研究内容	研究のニーズ	自転車事故が急増するなか、従来からのアプローチ(安全教育、マナー向上教育)に加え、新たな視点からの効果的な事故抑止策が求められている。				平成22年度、23年度(上半期)においても自転車事故の急増傾向は衰えず、有効な事故防止方策を新たな検討する本研究のニーズは非常に高い。				4			
	具体的内容	①過去事例の分析・評価:過去5年間の自転車事故事例を、原因、発生場所、時間帯、相手方等の諸要素で解析し、現場の道路標識(路面標識も含む)の配置、形状及び道路形状の影響と、事故当事者(年齢層も分析要素)の知覚(視覚)、心理面からの影響を検証する。 ②検証実験の実施:過去事例を基に、様々な状況を想定して、再現実験を行う。その際は、実験当事者(自転車運転者、歩行者、自動車運転者)にアイカメラを装着し、視点の推移と当事者の状況把握状況、実際の周辺状況との差異等を記録し、事故と標識等の現場状況、当事者の知覚、心理状況との関連性を検証する。 ③事故防止策の提案:上記検証等を基に、標識の改善等の実地的な事故防止策を提案する。				ほぼ計画通り研究を実施することができた。予算についても概ね適切であった。 ①過去事例の分析・評価:過去5年間(H18～22年度)の○○○件の事故を8月まで ②検証実験の実施:平成23年10月～12月の間で6回実施(場所:○○大学及び県内各所) ③実験結果とりまとめ、事故防止策の提案 平成24年2月に報告書とりまとめ完了				4			
	研究の新規性 萌芽性 独創性	記入のガイドライン				記入のガイドライン				4			
	研究計画	①過去事例の分析・評価 平成23年9月まで ②検証実験の実施 平成23年10月～12月 ③実験結果とりまとめ、事故防止策の提案 平成24年3月				①過去事例の分析・評価:過去5年間(H18～22年度)の○○○件の事故を8月まで ②検証実験の実施:平成23年10月～12月の間で6回実施(場所:○○大学及び県内各所) ③実験結果とりまとめ、事故防止策の提案 平成24年2月に報告書とりまとめ完了				4			
B 目標	研究の実施結果	指標	目標値	具体的な内容		指標	目標値	具体的な内容		達成値	達成状況	分析・解釈・価値判断	採点
	研究の実施結果	研究報告書 ①作成時期 ②冊数	①平成24年3月 ②150冊	【達成値】具体的な達成値を記入してください。 【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。 【分析・解釈・価値判断】事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してください。		①平成24年2月 ②150冊	①1ヶ月前倒し ②100%	①研究は順調に進み、1ヶ月前倒して終了できた。 ②予定通り作成し、関係官公庁等に配布できた。(配布先は別紙リストを参照) ①②ともに事前計画の目標値は妥当であった。		4			
B 目標	事業の成果・波及	自転車事故発生数、発生確率	減少	【達成値】具体的な達成値を記入してください。 【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。 【分析・解釈・価値判断】補助事業の目的(中間目的)に向けて何がどの位変化したのか。事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してください。		増加	-	自転車事故の増加傾向に歯止めが掛からない状況(24年度上期まで)本研究の現場への適用を含め、様々な対策を取り込んだ複合的な事故防止対策が急がれる。指標と目標値については報告書を配布してから1年以内で成果が出たかを計るのは適切でなかった。		3			

自己評価書 記入例 記入のガイドライン(2)

☐ 枠内は補助事業終了後に作成してください。

☒ 枠内は平成25年2月末までの状況を同年3月に作成してください。

(2) 補助事業の事前計画

評価項目		事前計画					
		補助金 交付要望時			計画変更時(最終計画)		
		指標	目標値	具体的な内容	指標	目標値	具体的な内容
C 広報	研究成果の広報	①研究室HP掲載(更新):回数 ②研究報告書:冊数	①8回 ②150冊	①研究室HP及び申請者への掲載 ②研究結果を報告書などに掲載	<div>事業終了後2週間以内についてと平成25年2月末時点についての成果広報の達成について記入してください。</div> <div>【達成値】具体的な達成値を記入してください。</div> <div>【達成状況】目標値に対する達成率を%で記入してください。</div> <div>【分析・解釈・価値判断】具体的な内容や、事前計画時の目標値・指標の設定は適切であったのか。目標達成、未達成の原因を分析して、記入してください。</div>		
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①学会発表:回数 ②学会誌への寄稿:回数 ③大学広報掲載:回数	①3回 ②4回 ③1回	①学会発表 ○○○○ ②学会誌への寄稿 △△△ ③大学広報(Web)に掲載			
	JKAの競輪・オートレース補助金で実施された事業であることの広報	①研究室HP掲載(更新):回数 ②研究報告書:冊数	①8回 ②150冊	①研究室HP及び申請者への掲載 ②研究結果を報告書などに掲載			
	【上段】事業終了時 【下段】平成25年2月末時点	①学会発表:回数 ②学会誌への寄稿:回数 ③大学広報掲載:回数	①3回 ②4回 ③1回	①学会発表維持に競輪補助金 ②学会誌への寄稿の差異 ③大学広報(Web)掲載			
D 成果の 利活用方法		本補助事業の提言に基づく道路標識(路面標識を含む)の形状、設置位置等			計画どおり利活用が出来たか具体的に記入してください。		

(3) 補助事業の自己評価 (自己評価Ⅰ、自己評価Ⅱ)

自己評価Ⅰ		自己評価Ⅱ		採点
自己評価Ⅰ	自己評価Ⅱ	自己評価Ⅰ	自己評価Ⅱ	
①10回更新 ②150冊	①125% ②113%	①100% ②75% ③100%	①125% ②113%	5
①3回 ②3回 ③1回	①100% ②75% ③100%	①100% ②75% ③100%	①100% ②75% ③100%	3
①10回更新 ②150冊	①125% ②113%	①100% ②75% ③100%	①125% ②113%	5
①3回 ②3回 ③1回	①100% ②75% ③100%	①100% ②75% ③100%	①100% ②75% ③100%	3
研究段階で、国の○○○○省○○○○研究所と連携を取ることができ、研究成果を実際の現場で活かす方向性が見えてきた。				3

(4) 補助事業の総括 Ⅰ(自己評価Ⅰ:補助事業終了時) 作成者(△△△△) [平成 0 年 0 月 0 日]

補助事業の終了にあたり、事業を振り返り、個々の評価項目の自己評価結果その他を勘案して、補助事業全体を総合的に自己評価してください。

①採点 (補助事業全体の総合評価を行ってください)

②総合所見 (補助事業を振り返り、下記項目についてご記入ください)

総合評価

4

採点欄の平均点ではありません。自己評価のスコアリングガイド【総合評価】を参照してください。

今回の事業で、優れていると評価できる点	【実績】 自転車事故発生メカニズム解明を新たなアプローチから行うことができた。 【理由】 事故当事者(自転車運転者、歩行者、自動車運転者)全員の知覚、心理面と道路標識、状況に焦点をあて、自転車事故発生メカニズムを検証し、対応策を提言することができた。	今回の事業の課題・改善すべきと思われる点	【課題】 過去の事故データは、断片的な情報しかない場合が多く、本補助事業の趣旨にかなう事故状況の再現が難しい場合が多かった。 【改善策】 この部分については、現状では改善は難しいが、この研究のためだけでなく、事故原因の解明、防止に向けた様々な検証、研究のためにも、事故の発生状況の記録の方法、内容等を検証し、標準化する必要があるのではないか。
事業全体の総括的感想	本研究は、自転車事故発生メカニズム解明の一助となり非常に有意義であった。今後は、研究内容を実際の防止施策に反映させることが、急務となる。	事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他、アピールしたい点等(あれば)	自転車事故の過去事例を分析して、事故当事者の年齢が事故発生状況のなかで大きなポイントを占めることが判明した。特に高齢者、低年齢者の知覚、心理面に配慮した、道路標識(路面標識も含む)の配置、形状及び道路形状の検討が求められる。

(5) 補助事業の総括 Ⅱ(自己評価Ⅱ:平成25年2月末までの状況) 作成者(□□□) [平成 25 年 3 月 0 日]

平成25年2月末時点で振り返りを行い、下記の状況をご記入ください。

○事業の目的等の達成状況

事業の目的(中間目標)、社会的課題(最終目標)の達成状況	本研究内容が国の○○○○省の△△△△委員会の検討課題として取り上げられ、申請者も部会員となった◇◇部会において実際の対応策を検討中である(平成25年9月に結論を得る予定) 1. 事業の目的(中間目標) 当初の予定通り、研究目的(事業も目的)を達成することができた。 2. 社会的課題(最終目標) 数値での成果が1年では見られなかったが、今後は研究成果を反映させた施策が検討されており、これが実現されれば、2年後には自転車事故防止に貢献することができると思われる。
------------------------------	---

-16-

自己評価書の作成の注意事項（２）

(5) 補助事業の総括Ⅰの総合評価欄の採点も自己評価のスコアリングガイドを基準にしてください。※自己評価Ⅰの採点欄の平均点ではありません。

(6) 自己評価書提出について

ア 自己評価Ⅰ

本要領に従い、事前計画を記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に追記して、**事業終了後２週間以内に**、m23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします（P.8「５．自己評価書の作成・提出（１）」）をご参照ください。）
※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

なお、作成した自己評価書は、「補助事業の完了報告書」に併せ、紙面でもご提出ください。

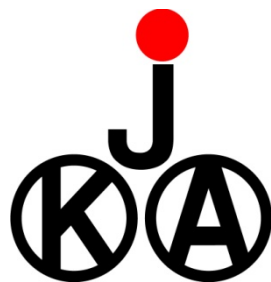
イ 自己評価Ⅱ

本要領に従い、事前計画、自己評価Ⅰを記載したご提出済みの「事前計画／自己評価書」に平成２５年２月末の現況を追記して、**平成２５年３月末まで**に、m23hyoka@keirin-autorace.or.jp（補助事業評価室）へメールにて、ご提出をお願いします。（P.8「５．自己評価書の作成・提出（２）」をご参照ください。）

※自己評価の評価過程、参加者等の記録（議事録等）を併せて添付・ご提出ください。

【自己評価のスコアリングガイド 2/2】

B 研究の 成果・ 波及	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、想定外の成果の波及効果があった。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、想定外の成果の波及効果があった。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
C 研究成果 の広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、外部の大きな反響または高い評価を受けた。（表彰、専門誌・新聞等に取り上げられるなど）
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
C JKA の競 輪・オート レース補助 金で実施さ れた研究で あることの 広報	5	事前計画の目標値を大きく上回って達成（達成状況 120%以上）することができた。または、目標値の達成（達成状況 100%以上）に加えて、計画外の自らのオリジナルな手法で広報を実施、または外部機関（新聞等）に大きく取り上げられた。
	4	事前計画の目標値を達成（達成状況 100%以上～120%未満）することができた。または、目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	3	事前計画の目標値をやや下回った（達成状況 80%以上～100%未満）。または、目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）が、追加的に、計画外の手法（自ら行うもの又は外部機関が行うもの）で広報を行うことができた。
	2	事前計画の目標値を下回った（達成状況 60%以上～80%未満）。
	1	事前計画の目標値を大幅に下回った（達成状況 60%未満）。または、達成値が明確でなく達成状況が判定できない。
D 成果の利 活用方法	5	事前計画の予定・想定を上回る、具体的な成果の利活用があった。
	4	事前計画の予定・想定通りの、具体的な成果の利活用があった。
	3	事前計画の予定・想定は若干下回ったが、具体的な成果の利活用があった。
	2	事前計画の予定・想定した利活用にはまだ至っていないが、十分な見込みがある。
	1	具体的な成果の利活用の実現は難しい。
総合評価	5	全体として極めて高いレベルの研究であった。
	4	全体として比較的高いレベルの研究であった。
	3	一部に不十分な水準の内容及、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの研究であった。
	2	全体として不十分なレベルの研究であり、いくつもの課題が残った。
	1	全体として極めて不十分なレベルの研究であり、根本的な見直しが必要である。



問合せ先

財団法人 JKA

〒102-8011 東京都千代田区六番町4番地6

〔補助事業評価室 評価担当〕

TEL:03(3512)1279 FAX:03(3512)1274

問合せ時間 平日の午前9時30分 から 午前12時まで

午後1時 から 午後5時30分まで

ホームページアドレス

補助事業

<http://ringring-keirin.jp>